

## シェフ三瀧の“時事中国語調理の秘訣”

時事中国語の大きな特徴の一つに2音節化があります。実はこれ、ちょっと聞くと実に変なのです。中国語は表意文字ですから、一つの意味を伝えるのに漢字一字で間に合うことがずいぶんあります。これは見れば一目でわかりますから、2音節化する必要度は当然低くなります。一方、話し言葉の場合、中国語の漢字は同じ発音のものがたくさんありえますから、2音節化しないと聞き取れない場合がよくあります。例えば“shì”といわれたって、皆目見当が付きませんが、“shìqing”といえれば、すぐわかります。

中国語の歴史文法を紐解いてみると、多音節化が顕著になるのは六朝時代の志怪小説や志人小説からで、当時の口語の影響が汲み取れます。興味がある人は、ぜひ吉川幸次郎先生の『六朝助字小記』などをお読み下さい。

ではなぜ、2音節化が時事中国語の大きな特徴の一つになるのでしょうか。その理由はリズムにあります。中国語はリズムを大変に重んじます。4字句といわれる4字成語は辞典ができるくらい数がありますが、格調高い文であればあるほど、この4字のリズムが尊ばれます。したがって、目的語や修飾しようとする語が2音節の場合、動詞や修飾する副詞なども2音節にしてあわせて4音節にして格調を追求、ということが恒常的に行われるわけです。そのためには、少々の文法も無視してしまう、それほどのものなので、よく中国語の作文の授業で中国人の先生が学生を苦しめるのはこのせいなのです。

次回から、この具体的な代表例に触れていくことにしましょう。